

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気です。全員笑顔で明るく「のんびり」と不満、不安をなくし「くらしやすい生活が出来るように」思いや「ある」介護をめざします」という理念を基に地域密着型サービスの理念として「地域の方といつも笑顔であいさつ」と地域の方に地域の一人として地域で暮らしていけるように支援に努めている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に「理念」を唱和している。申し送りやカンファレンスの時、意見の交換を行い基本的な考えは共有出来ているし日々取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族等の面会時、行事参加時、運営推進会議時に話しをし、理解を得ている。	
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に挨拶を交わし、親睦を図っている。時々婦人会の時一緒だった友人が訪れたり、近所の方が野菜を持って来てくださっている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動の道路愛護や区のハエ蚊消毒に参加したり(職員)、区の中にある校区公民館主催の夏祭りに協賛し参加(全利用者、職員、家族)、区の半数の方々が参加しているゴルフ大会等に参加(管理者)し地元の人々と交流することに努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者の夫婦で暮らしている家庭や高齢者一人暮らしの所に、給食サービスとまで行かない、おすそ分けサービスをしてはと言っ話しを職員間で話しているので慎重に検討している段階である。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価意義理解し、施設の質の向上、職員の質の向上、提供サービスの向上につながるよう日々取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。意見が出た場合はすみやかに検討、実行し、次回の運営推進会議で報告を行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括センターと連携をとり、ホームの空き状況やホームのパンフレットを持って行ったりして、その都度相談やホームのアピールをする様にしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については研修会に参加し学んでいる。又、入居時に家族等にも説明を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての厚生労働省の定義をホーム内に掲示したり、研修会(地域包括支援センターの高齢者虐待事例報告)等があれば参加し、職員間で知識の共有を図り、職員の介護上のストレスを溜めないようにミーティングを通して話し合い、解決に向けて意見交換を行っている。又、入居者の外出、外泊等においても気配りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に事業所で出来ること、出来ないことでの説明を行い、受け入れられる条件を説明の上理解して頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に日頃のコミュニケーション(言葉や動作、表情等)の中で表れたものを見逃す事のないようにして職員が情報共有し、不満、苦情の解決に取り組んでいる。又、利用者が戸惑うことのないように、職員間で処遇を共有している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族面会時に常に(利用者さんの身体、精神状態、認知状態、近い将来に起きるであろうと思われるリスク、急変等々)報告し、病院受診の際には電話連絡を行っている。広報誌の発行にも努めている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議、行事、家族会、家族等の面会時には職員が必ず対応し、利用者さんの状況報告をする事にしており家族から提案や要望を聞き話し合いを行い、改善実施できるように努めている。又、問題発生時にはその都度、意見の交換をして、改善、解決に取り組んでいる。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼時やカンファレンスの時に運営方針等を伝えて、職員から提案や要望などの意見を聞き、話し合いを行い、改善実施できるように努めている。又、問題発生時にはその都度、意見の交換をして、改善、解決に取り組んでいる。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者さんの状況変化や行事の際には職員に理解を得て調整を行い、十分確保できている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の家庭事情を理解配慮した勤務体制のため離職は少ない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用にあたっては性別や年齢、学歴、職歴、宗教、母子家庭等々を理由に採用対象からの排除は全く行っていない。また、働いている職員については、自ら参加しているボランティア活動のための休日願い等や余暇活動、研修等についても十分に配慮している。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>特に弱者に対する人権教育については、機会あるごとに(朝礼時、カンファ、ミーティング等)法人全体の職員に再三繰り返し発表して共有できるように、努め取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じて計画を立て、認知症対応型サービス事業者管理者研修等へ職員が出来るだけ多く行くように努めている。又、協力病院の院内研修や医師会の介護保険研究会の研修会への参加もしている。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人にもう二ヶ所グループホームがあり入所者、場所、環境も違い、色々な状態に遭遇する為、その体験を職員間で共有化しサービスの質の向上につなげている。同業者では二ヶ月に一度程度、茶話会での情報交換や電話での書類の書き方等、お互いに問い合わせをしたり、情報交換を頻繁にして交流を図っている。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務表作成時に職員の休日希望を十分に受け入れし、又、退社時にさげなく悩みなどないか、話を聞いている。年四回親睦会を行っている。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>ほぼ毎日、出勤している為、職員の勤務状況や個々の努力、実績は把握出来ている。職員への声かけも行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に情報を得て、本人の事はだいたい把握しているが本人に会ってから、少しずつ、本人の思いや不安、希望等を語り、つぶやきのようにして言っている事でも聞き逃さず、知る努力を行っている。</p>	<p>ゆっくりと時間をかけて、馴染んで頂いている。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いを十分に受け止め、家族が納得のいくまで話しを聞くようにしている。事例等をあげながら説明を行っている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>困っている事、必要としている事を聞き取り、見極め、他のサービスの説明や事業所の紹介等を行っている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に本人さんのホーム見学を勧めている。昼食やおやつを他の入所者の方と一緒に過ごしていただく体験を通して、本人の不安を出来るだけなくすように工夫している。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理の味付けや方法をおしえていただいたり、電話が鳴っていることやお客様が見えたことを職員に伝えてくださったり、出迎えや見送りを一緒にしていただいたり、職員に「少し座って休んだら」と優しく声をかけて頂いたり、共に生活しているという関係を築きあげようとなって来ている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族に本人さんの生活の様子、変化など話しをしており、又、家族から本人さんの以前の状態や環境の違いなど伺い、改善策へ向けて家族と意見の交換を行って、共有している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	家族からの電話や家族への電話も気軽に応じている。面会時には居室でゆっくり過ごしていただける様に配慮している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	かかりつけの病院等へ出かけ友人に出会う場面もある。若い頃の馴染みの場所や人の話を聞くことで支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は把握できており、トラブルが起きそうな場合は、職員が間には入り、気分を変えるなどの工夫をしている。		日頃から常に、利用者それぞれの長所やいい所を日常会話に取り入れ、支えあう気持ちが根づくように努めている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	短期入院の場合は二日に一回洗濯物を職員が取りに行き、状況を聞いた後、本人さんに笑顔で声かけて不安解消、認知症の悪化防止に努めている。又、その時に長期入院となり退所した利用者の所へ機会あるごとに顔を見せ、話しをしている。家族にも再入所の可能性についても話している		長期入院で退所された利用者の方が再入所されても不安や戸惑いも無く馴染みも早いので今後も継続して行う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の生活歴、趣味、会話や表情、行動などから本人の希望、意向の把握に努めて、実現に向けて家族や職員間で話し合いをしている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族からの聞き取りや、入所後、本人さんとの生活の中での会話の中でプライバシーに配慮し、時間をかけて少しずつ聞きとっている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>仕事に入る前に必ず、申し送りし。朝礼時には注意すべき点や一日の予定を読み上げ、全職員が把握するように努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向をもとに、朝礼時、月例会議にて全職員(介護職、看護職、栄養士等)の意見を反映し、計画作成担当者が介護計画を作成している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三ヶ月毎の見直しを行っている。又、変化に応じて家族と話し合い、プランの見直しを行うようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人さんの精神面や体調、排泄状況、食事の量、機能回復訓練動作など個別記録に記入し、支援の方法や介護計画の見直しに活かせるようにつとめている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の方の生まれ里に里帰りさせたい、医大への通院が必要、との家族からの相談の時にはクルマ椅子専用車両の無償貸し出しやかかりつけ病院には看護師の付き添いによる受診、理美容院への送迎などの支援をしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月一回ボランティアの方がセラピュウテックに来ていただいたり、毎年恒例の小学生の施設見学、中学生の職場体験学習などにより生き生きとした一時が過ぎる事の出来るよう地域の方の理解と協力を利用者さんの支援に利用させて頂いている。子供110番の依頼も受けている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム入所する前に病院で機能回復訓練等を受けた利用者の方について、病院の担当医師と理学療法士にその都度、相談してグループホーム内で出来る訓練の指示を受けている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	長期的ケアマネジメント等についての相談はしていませんが、介護研究会にて地域包括支援センターの高齢者虐待事例発表などの勉強会を通じて協働できるように努めている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に看護師が付き添いで受診することによって、グループホームでの介護や健康管理についての継続的な指示やアドバイスを受けられるように図り、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医や協力病院に日頃の情報を提供し対応してもらっている。また、月に二回の往診や受診があるが、その時医師に職員が気軽に相談したり、利用者が診察を受けられるように支援している。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤で居るため、ほぼ毎日の健康管理チェックをしておりスタッフやかかりつけ医、協力病院の担当看護師にも気軽に相談できる良い関係を確立している。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、本人や家族にも不安を与えない様に相談に応じており二日に一回の洗濯物取り、交換、面会等、早期退院（訪問看護を利用）等について病院関係者や家族と密に相談連絡を取っている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは日頃から利用者の認知症の進行度、体調の変化を随時知らせ、急変時の対応も話し合っており、その旨を医療機関とも連携し、方針を共有している。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の方の心身状態、生活状態（食事、排泄、睡眠等）、バイタル等のチェックの強化を行い、協力医療機関と24時間の医療連携について家族、担当医・職員・職員で情報の共有化に努め、行うようにしている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の協力を得て、次の施設への訪問を行って頂き、住み替えによる本人のダメージを防ぐように努めている。また、次の施設へは、本人の状況や習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を出来るだけ詳しく提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄介助等の声かけは、できるだけさりげなくするように心がけている。個人記録への他人所者名は記録しないようにしている。人としての尊厳を重視し、プライドや人格を尊重するようにしている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>飲み物の希望(熱いものか冷たいものか)を聞いたり、ご飯の量(お代わりは自由、減らすのも自由)に本人の希望を聞いている。本人の選択決定のできる機会を多く設けるように心がけている。タオル・服など好きな色の選択や髪のカットの長さ、パーマをかける、髪を染める色など本人の意思決定ができるように努めている。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間、朝食時間、消灯時間、入浴の順番、時間による居場所の決定等は決めておらず、本人の生活リズムを壊さないように努めている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>髪の色は本人の希望で、服の色柄等も本人の好みに合わせた支援に努めている。馴染みの美容室には家族が連れて行かれたり、ホームで送迎している。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の皮むき、揃え、切り刻み、後片付け等自分に出来るような事、出来ることを職員と楽しく一緒に行ってもらっている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>酒、タバコ等は本人か家族が望めば、できるだけ支援するように努めている。本人買いのバナナやお菓子の支援は行っているし、お茶は熱いものか冷たいものか等希望を聞いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	訴えない方は定時誘導、不自然動作誘導して排泄の失敗を減らすようにしている。殆どの方を昼間はトイレにて排泄していただくよう支援している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、希望があれば毎日入浴していいとしている。何時でも入浴が出来るようにするために、明日、入ると言ってお風呂をされない事が生じた為に、今現在は入浴を最低週三回は入っていただく為に設定している。本人の体調や希望、タイミングを図り入浴を楽しんで頂くように努力し、努めている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床・消灯時間は決まっていない。昼寝をするもしないも自由に行っている。いつでも寝れて、いつでも起きれるという安心感を与えるように支援している。(グループホーム入所する前の起床時間や消灯時間、すなわち利用者本位の生活のリズム、習慣を出来るだけ継続するように努めている。)		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、ゴミ燃やし、コーヒーカップ片付け等の役割や気晴らしの散歩、ドライブ等の支援。野菜収穫時の手伝いなどは張り合いや喜びを持って、手伝っていただいている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自動販売機で缶ジュースを購入したり、お地藏さん参りでお賽銭をあげられたり、小銭ではあるが、持って頂く機会をできるだけ多く作るように努めている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	話しの流れや思いつきで散歩や日向ぼっこをしたり、近くの公園に行ったり、散策をしたり支援するように、日頃から心がけるように努めている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	家族と一緒に買い物や食事、里帰り、日帰り旅行、墓参り、病院へのお見舞い等に外出されている。相談がありクルマ椅子専用車両貸し出しも行い、家族と外出が容易にできるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、本人がかけたい時には要望に応じている。また、家族からの要望で手紙を代読するなどの支援をしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の時間、曜日は自由に行っているため、朝・夕問わず色々な方達が面会に来られている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないようにしているが、就寝の際にベッドから落ちた心配され、本人がベッド柵を使用したい場合は、家族に相談、説明して許可をえている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	精神科より入所された方が投薬調整中（精神面における突発的不安定時）、一時的に玄関に鍵をかけることはあるにしろ、その他は常に開錠している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされる際、さりげなく声かけし、見守りを行い、様子を把握するよう行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、はさみ、縫い針等は本人の希望で必要な時だけ提供し、使用後は目のつかない場所に保管している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の可能性のある方はさりげなく見守りし、誤薬を防ぐためには服用の際、名前、日付を本人さんの前で復唱し確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署において心配蘇生法、AED講習会に参加。また、参加者による職場内で研修を行い、対応できるように努めている。		すべての職員が熟知できていないので今後も研修会への参加、勉強会を重ねていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	シュミレーションによる訓練は職員間で機会あるごとに行い、屋外への避難訓練は年一回程度行っている。グループホームの認知症の方の理解を優先したため、実際に地域の協力を得られる働きかけまではできていない。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や行事、運営推進会議、家族会等の機会あるごとに精神面の状態や身体的状態、生活状態、バイタル等にて今後、起きるであろう突発的な急変についても話しをしている。また、重度化や看取りについての話しもしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを一日に必要な応じ2~3回行い、顔色・表情・食事量等の観察を行い、記録に残し、職員は把握できるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬について、インターネットにて検索した資料の個人別ファイルもありいつでも見れる状態にしている。薬の用法、用量についてはだいたいの理解はしており、常に看護師と相談できる体制になっている。日頃の行動、排便状況、血圧等を観察、記録し、担当医師に薬の調整をしていただいている。薬の変更があった場合は、申し送		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による病気の悪化、便秘の原因などは理解しており、水分やヨーグルト、繊維質の多い食物摂取などの食事療法(管理栄養士による献立)や機能回復を兼ねた? まり立ち上がり訓練とよによる運動療法等にて少しでも改善するように努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯ブラシにハミガキ粉を付けて渡して磨いていただいたり、手の届くところにコップや歯ブラシ、ハミガキ粉を準備したりと、その方の一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と栄養士による栄養バランスを考えた献立、調理方法にて栄養摂取は確保できている。水分摂取は最低1000ccを目標に食前、食事時、食後、食間にお茶やコーヒー、紅茶等を頻繁に提供し、状態に応じて飲みやすくするなどの工夫を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルがあるので、保険所、県の介護保険課、保険者からの通達、病院受診時の情報収集に努め職場外研修や職場内研修、朝礼時等、機会あるごとに情報の共有化を図り、感染予防に努めている。また、職員も利用者の方も外出先から戻った際は必ず手洗い、うがいを行うようにしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	利用者の食事の時はアルコール噴霧した手拭で手を拭いていただいている。まな板は夕食調理終了後に漂白殺菌を行っている。また、包丁やまな板は使用する前にアルコールにて消毒を行って、使用している。食器は食器乾燥機にて乾燥し、新鮮な食材は新鮮なうちに使い、調理後も常温で長時間放置することのないように努めている。職員は毎月、検便を実施している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家風建物のため、親しみやすく違和感のない建物である。建物が道路に面している為に、小学校の生徒さんが朝、夕の登下校時に手を振って挨拶をしてくれて、利用者の方々も手を振って答えている。和やかな雰囲気が感じられる。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレ、食堂には季節折々の草花を職員が途切れることのないように生けている。利用者にとって不快な音や光等についてはカーテンや窓を開けたり閉めたりすることによって調整配慮している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の部屋にもソファを置いているので時々一人で居たり、二～三人で過ごしたりしてある。また、のんびりとした一時を食堂の前の空間で(日なたぼっこや三時のおやつ等)過ごすことが出来るように、努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には持ち込み自由なので、出来るだけ本人さんの使い慣れたタンスやまくら、仏壇等、馴染みのある物を多く家族に持ってきていただくようにしている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は十分に行うことにより、排泄の臭いや空気のおよみがないように、何時も心がけて実施に努めている。居室や食堂等には温度湿度計を設置し、温度や湿度にも季節の温度や湿度に応じて調整するように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの必要に応じ、手すりをつけている。それぞれの身体機能を活かし、車椅子での自力走行や手引き走行、介助による歩行、見守り歩行を行うことで自立に向けての支援をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には名札を掲げたり 本人の顔写真を貼ったり 共有トイレにはトイレと書いた目印を貼っている。それでも迷ってあるような時には、さりげなく誘導している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	グループホームの立地環境等を活かし、農家よりホームの近くの畑を借りて、四季に応じて野菜を植えて収穫の手伝いや見学など参加したり 散歩の行き帰りに野菜の生育具合を見て楽しんでいただいている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 風のふく丘

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方々の一人ひとりの思いを理解し「家庭的な雰囲気」「全員笑顔で明るく」「のんびりと」「不満、不安をなくし」「くらしやすい生活が出来るように」「思いやりある」「介護をめざします」と理念に沿って、悔いのない介護を毎日、職員が試行錯誤でサービスの提供を行い、利用者が自分の家でいい生涯だったと思えるよう、職員も元気で明るく、仕事を頑張っている、グループホームであると理解し認めていただけると信じています。また、職員も自分自身が利用したい、施設作りに取り組んでいます。